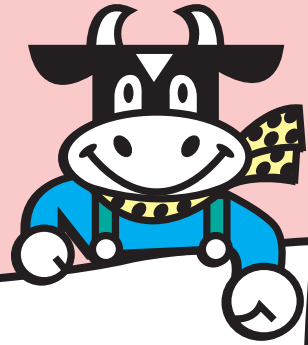




ワンポイント・アドバイス



「もう一度黄色ブドウ球菌(SA)性乳房炎を知ろう」

なぜSA性乳房炎が問題なのか？

SAの問題は、経済性と、食品衛生です。SAは何も症状を出さないまま牛から牛へと伝染していき、その結果乳量が減ったり体細胞数が増えたりといった経済的損失を生みます。一度感染すると治りにくいため、損失は延々と続きます。また、毒素を放出して食中毒の原因ともなります。2000年に起きた雪印乳業の集団食中毒事件は、SAが原因でした。

SAの性質

SAは搾乳により感染します。SAの入った乳汁がライナースリップによって生じる気圧差により他の乳頭に飛び込み、分房間、個体間での感染が起きます。また乳頭口の化膿した傷にも、SAが大量に存在します。

SAは感染初期には乳汁の中に浮かんでいますが、時間がたつと乳房の組織中に侵入します。組織中では膿のカプセルを作り、定着してしまいます。定着すると薬も届きにくくなり、治らないことも多くなります。

泌乳期治療

感染初期で乳汁に浮かんだ状態のSA

なら乳房炎軟膏が効きますが、感染から時間がたつて乳房の組織中に侵入したSAに軟膏は届きません。なかなか治らない場合には、獣医師にご相談下さい。

乾乳期治療

乾乳期は、働き続けていた乳房が休憩する期間です。しつこい乳房炎も乾乳期なら治りやすくなります。乾乳軟膏と注射薬を併用する方法がありますので、こちらも獣医師にご相談下さい。

予防

搾乳作業時は、ライナースリップを起さない、一頭一布で乳頭清拭、過搾乳で乳頭口を傷めないように、など丁寧な作業が予防につながります。感染牛は搾乳順序を最後にしましょう。搾乳中に、ライナーを消毒液に浸すことは殺菌にはほとんど効果が期待できません。むしろ内部が濡れてライナースリップの原因となります。

泌乳期でなかなか治らない場合、治療・検査の間や感染のリスクを考えると、盲乳にした方が効率的です。乾乳に近い場合は、早めに乾乳し治療します。SA感染牛は、淘汰の優先順位を上げましょ

う。

子牛にSA感染牛乳を飲ませると初産直後からSA感染することがあります。また、下痢の原因となることもあります。

SAは対策をしないと牛群の中でどんどん感染牛が増え、一度感染するとコントロールするのが難しい細菌です。しっかり予防をして、SAによる損失を抑え、安全な牛乳を生産しましょう。

